

小学六年

国語

解答と解説

問六 エ	問二 1 ウ	問一 1 取	問八 パ	問五 ④ ア	問一 ウ
問七 「	2 ア	り	ズ	⑨ エ	問二 エ
話	3 エ	返	ル	問六 エ	問三 i
し	問三 エ	し	が	問七 生	イ
て	問四 イ	の	ど	問八 エ	ii
も	問五 ア	つ	問九 エ	問九 急	iii
	イ	か	問十 ウ	問十 ま	エ
	ウ	な	問十一 に	問十一 れ	ア
	エ	い	問十二 大	問十二 て	問四 ウ
	オ	2	問十三 き	問十三 は	
		ウ	問十四 く		

(完巻)

(配点)

- ①〔問三〕各2点、〔問五〕各3点、他各5点 } 計150点
 ②〔問二〕各2点、〔問八〕7点、他各5点 }
 ③④⑤各2点

5		4		3				問八																																																														
⑥	①	①	①	①	問九	<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>を</td><td>身</td><td>き</td><td>日</td></tr> <tr><td>元</td><td>に</td><td>た</td><td>本</td></tr> <tr><td>に</td><td>つ</td><td>空</td><td>文</td></tr> <tr><td>戻</td><td>い</td><td>気</td><td>化</td></tr> <tr><td>し</td><td>て</td><td>を</td><td>に</td></tr> <tr><td>た</td><td>い</td><td>読</td><td>よ</td></tr> <tr><td>く</td><td>る</td><td>む</td><td>っ</td></tr> <tr><td>な</td><td>た</td><td>生</td><td>て</td></tr> <tr><td>る</td><td>め</td><td>き</td><td>長</td></tr> <tr><td>と</td><td>、</td><td>方</td><td>ら</td></tr> <tr><td>い</td><td>乱</td><td>が</td><td>く</td></tr> <tr><td>う</td><td>れ</td><td>本</td><td>育</td></tr> <tr><td>こ</td><td>た</td><td>能</td><td>ま</td></tr> <tr><td>と</td><td>空</td><td>的</td><td>れ</td></tr> <tr><td>。</td><td>気</td><td>に</td><td>て</td></tr> </table>				を	身	き	日	元	に	た	本	に	つ	空	文	戻	い	気	化	し	て	を	に	た	い	読	よ	く	る	む	っ	な	た	生	て	る	め	き	長	と	、	方	ら	い	乱	が	く	う	れ	本	育	こ	た	能	ま	と	空	的	れ	。	気	に	て	問十
を	身	き	日																																																																			
元	に	た	本																																																																			
に	つ	空	文																																																																			
戻	い	気	化																																																																			
し	て	を	に																																																																			
た	い	読	よ																																																																			
く	る	む	っ																																																																			
な	た	生	て																																																																			
る	め	き	長																																																																			
と	、	方	ら																																																																			
い	乱	が	く																																																																			
う	れ	本	育																																																																			
こ	た	能	ま																																																																			
と	空	的	れ																																																																			
。	気	に	て																																																																			
劇	幼	雲	ウ	ウ	ウ					48																																																												
葉	児	②	②	②	ウ									49																																																								
65	60	暮	オ	オ																																																																		
⑦	②	③	③	③																																																																		
郷	迷	世	ア	ア																																																																		
里	宮	④	④	④																																																																		
66	61	⑤	⑤	⑤																																																																		
⑧	③	因	エ	エ																																																																		
専	革	⑤	⑤	⑤																																																																		
門	命	聞	イ	イ																																																																		
67	62	55	50	51																																																																		
⑨	④	56	57	52																																																																		
奏	謝	58	58	53																																																																		
68	63	59	59	54																																																																		
⑩	⑤																																																																					
險	順																																																																					
69	64																																																																					

44
45
46
47

【解説】

1 尾崎英子の『きみの鐘が鳴る』（ポプラ社）から出題しました。

中学受験に向けて塾に通っている唯奈は、他人の気持ちを理解するのが少し苦手な女の子です。特に大きな声で何か言われるとわけがわからなくなつて頭が真っ白になってしまいます。本文は、あまり良いとはいえないクラスの雰囲気（ふんいき）に耐えかねた担任の先生がお休みに入るところから始まります。みなさんと同じ境遇の登場人物たちが出てきますが、必要以上に感情移入しないように気をつけていて、いねいに読み進めていきましょう。

問一 B1 置換 比較

担任の岩瀬先生が学校をお休みすることについて唯奈が感じていることとして適切なものを選ぶ問題です。単語だけのレベルで同じかどうかを判定するのではなく、選択肢全体が本文とつながっているかどうかをいねいに照らし合わせましょう。第三段落、第四段落の内容からウが正解となります。ア「先生にばかり攻撃が集中していた」、イ「意外に感じている」、エ「自分も消しゴムを投げつけていたクラスメイトと同じだと思われるだろう」がそれぞれ誤っています。

問二 B1 理由 比較

線②前後の会話をいねいに追っていきましょう。「どんな中学校が合うんだろうな、唯奈には」とたずねたお父さんに対して、唯奈自身は「うーん、どこだろうね」とまるで自分に関係ないかのような返事をしています。これを受けてお父さんが「唯奈、中学受験したい？」とたずねている

ことがポイントです。「したいけど……なんで？」とたずね返した唯奈に対し、お父さんは「唯奈は、お父さんと似ているところがあるから、同じ苦労をさせたくなくてさ」と、受験をすすめた理由を説明しています。ただし、この場面では「だったらいいんだけど、中学受験をさせたいって言出したの、お父さんだからさ」とも言っており、自分がすすめたこととはいえ、本当に唯奈自身が望んでいることなのか、また本当に唯奈のためになっているのか、という点で少しゆらいているお父さんの様子が読み取れます。以上のことから、エが正解となります。ア「本当は受験をしたくないと思っただけなのに、ウ「これまで以上に集中して勉強に取り組みまざるを得ない状況を作ろう」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 関係づけ

適切な副詞を空らんに入れる問題です。
 i お父さんは心配そうに理由をたずねていますが、唯奈は大したことでもないような返事の仕方をしています。このことから、イ「あっさり」とが入ります。
 ii 大学附属の中学校に入学して手に入れようとしているのはどんな学生生活であるかということ、またそこに入れば楽できると思つちやダメとも言われたことを合わせて考えると、エ「のびのびと」が入ります。
 iii 唯奈が解いていた過去のプリントを奪った遠藤晴翔はからかうつもりでそのプリントを唯奈に見せつけています。したがって、ア「ひらひらと」が入ります。

問四

B1 理由 比較

このような表現効果についての設問を解く際は、「その表現がなかったとしたら表現から受ける印象がどのように変わるか」を考えてみましょう。唯奈にとつては、お父さんに「できるだけ楽しそうな声で」返事をすることにプラスの意味があったのです。もし普通の声、あるいははずんだ声で返事をしたとしたら、お父さんの心配はおさまるところかより大きくなってしまいうでしょう。ですから、唯奈はお父さんの心配をやわらげるために「できるだけ楽しそうな声で」返事をしたのです。したがって、ウが正解となります。ア「それほど大したことでもないと感じていた」、イ「学校に乗りこむのではないかとおそれた」、エ「自分で気持ちを処理したいと考えた」がそれぞれ誤っています。

問五

A2 知識 関係づけ

語句の意味を答える問題です。辞書の意味を知っていることが重要ですが、複数意味がある言葉ではどれが適切か考えたり、辞書の意味を土台にして文脈に合わせた表現を選んだりすることを意識しておきましょう。

④ 「茶化す」は相手の動作や発言に対してまじめに取り合わず、冗談めかした受け答えをすることを指す言葉です。したがって、アが正解となります。

⑨ 「口角」は上下の唇の両端部分を指し、「口角を上げる」で口の端を上げて笑っているような表情を作ることを指します。

問六

B1 知識 関係づけ

⑤ の直前に「及第点に届かないと容赦なく留年させる厳しい学校もあるから、そこに入れれば楽できると思っちゃダメ」と言われた、という内容が書かれています。甘い考えに対して厳しい現実を突きつけられていることから、エ「釘をさされた」が入ります。

問七

B1 具体化 比較

最初はそれほど強い印象を持っていなかった唯奈でしたが、過去問を解き進めるうちにワクワクして楽しく感じ、最終的には「この学校に行きたい」と強く思っています。唯奈が「駒澤国際中学校」について「プラスにとらえている」部分意識して読み進めると、——線⑩の次の文に「生まれてはじめて、自分でここがいいと思えた学校なんだから」という表現が見つかります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B1 具体化 関係づけ

——線⑦をふくむ一文は「もつと、こういう問題を解けるようになりたい」となっています。唯奈は駒澤国際中学校の過去問にかなりの好印象を持っていることがうかがえます。直前の部分に、算数の問題がいかによく考えて作られているかを賞賛する表現が並んでいます。字数とつながりを考えると、この部分から「パズルがどんどんハマっていく」が見つかるでしょう。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 理由 比較

唯奈の行動の理由を問う問題です。行動の理由を問われた時は、その時の心情を軸に考えましょう。「笑う」理由は「どんな気持ちで笑っているのか」で説明できます。直後の部分で「とりあえず笑ったような表情を作っていれば、向こうも笑う。こいつ笑ってる、バカだよな、と笑う」とありますから、相手に「バカだ」と思わせて笑わせることで場をうまくやりすごしたい、という気持ちがあつての行動だとわかります。したがって、エが正解となります。ア「いやなことを言えなくなる」、イ「悪口や嫌味が通じないことに耐えられなくなつて」、ウ「気づかないうちに解決している」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 具体化 関係つけ

塾の先生自体は本文に登場していませんから、誰かを通じて塾の先生の唯奈に対する評価が示されているところを探すこととなります。この場で塾の先生と接触しているのは、面談に行つた両親です。これをふまえて探すと、⑤の四行後にお父さんが「唯奈ちゃんは、急に大きくジャンプするタイプの子だつて言つてた」と、塾の先生の唯奈に対する評価を説明しています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 真山仁『正しい』を疑え！(岩波書店)から出題しました。

自分の行動が『正しい』かどうかを気にしがちな日本人の性質を歴史的・地理的な面から考察し、太平洋戦争やコロナ禍における「民意の暴走」をふまえて日本人とは何か、ということ

を考える文章です。

問一

1 **B1** 理由 関係つけ

「太平洋戦争の始まり」は具体例として挙げられている内容です。具体例の前後には、具体例を通じて説明したい抽象的な内容が書かれていることが多いので、意識しながら前後の内容を読み進めましょう。《1》の三行後に「取り返しつかない」という表現が見つかります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 **B1** 具体化 比較

太平洋戦争がなぜ始まつたのかということについての筆者の見解は、——線①の十行後以降に書かれています。暴走したと思われていた政府や軍も「勝てるわけがない」と思っており、民意の暴走に押し切られる形で戦争に突き進んでしまつたのだ、というのが筆者の主張です。したがって、ウが正解となります。ア「先進国との戦争にも勝ると軍が判断した」、イ「政府や軍が暴走してしまつた」、エ「無理を承知で戦おうと誰もが考えるようになった」がそれぞれ誤っています。

問二 **B1** 関係つけ

空らんにとってまる接続詞を考える問題です。前後関係に着目し、それぞれのつながり方をおさえながら考えていきましょう。

《1》の後には、「当時の『空気』は、『戦争をして鬼畜

米英を叩け！」が「正しい」ことだったので」とあり、前には「国民が生んだ嵐のような熱気が、戦争気運を燃え上がらせた」と書かれています。書き方は異なっていますが、同じ内容を表していますから、ウ「つまり」が入ります。

《2》の後には、行動制限に対してクレームをつけた人がほとんどいなかった、という事実が指摘されています。これに対して前には、日本で多くの人が行動を制限したことが書かれています。最初の動きとして行動制限が開始され、それにつけ加える形で行動制限にクレームをつけた人がいないという内容が続いていますから、ア「さらに」が入ります。

《3》の後には、日本では社会の共通認識や個人の行動様式について言語化の必要がなかった、ということが書かれています。これに対して前には、日本では「同一性社会」が基本であった、ということが書かれています。前の内容が後の内容の理由になっていますから、エ「だから」が入ります。

問三

B1 知識 関係づけ

② をふくむ一文を全体でとらえておきましょう。日本で多くの人がどのように行動を制限したかを表す言葉が入ります。海外とは異なり、日本人の多くはそれほど文句を言うこともなく自分から進んで行動を制限したことが書かれています。このことから、エ「自主的」が入ります。

問四

B1 理由 比較

自粛しない店や個人を攻撃する理由を筆者がどうとらえているか、という設問です。——線③の十四行後に「こうした行動の背景にあるのは」という書き出しがあり、ここから筆

者の考える理由が説明されています。三つ後の段落でも、「『空気を讀んだ』人々が「正しい」方向へなびいたからではないでしょうか」という筆者の見解が述べられています。これらの内容をもとに、イが正解となります。ア「法律にのっとって罰せられなくてはならない」、ウ「法による規制を早く実現させたい」、エ「自粛を続けていることを強調する」がそれぞれ誤っています。

問五

B2 具体化 比較

——線④の三行後に「なぜ、そんな気質があるのでしょうか」という問題提起があり、ここから筆者がその理由を考察していくことが示されています。示されている理由は一つではなく複数ありますから、選択肢の内容と照らし合わせながらいいねいに検討していきましょう。本文内容と合っているのはア・オです。イ「国境を少しずつ変えながら」、ウ「自分たちの領土をいかに守るか」という問題意識、エ「取り上げるほどの危機を経験することもなく」がそれぞれ誤っています。

問六

B1 置換 関係づけ

⑤ 直前にある「島国という地理的条件」「長く続いた特殊な歴史」が理由で日本がどのような社会になったのかを考えます。直後に「つまり、多様性から最も遠い文化の中で生きてきたということですから」とあり、⑤「多様性」と反対の内容が⑤に入ることとなります。したがって、エが正解となります。

問七

B1 理由 関係づけ

いちいち言語化する必要があるのは海外の社会です。海外の人々が何を目的として言語化をするのかを考えながら本文にもどりましょう。コミュニケーションをとること、言語化をすることについて日本と海外が対比されているところを意識して探すことが大切です。「ア」直後の部分で両者が対比されています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B2 具体化 推論

ここでの「潜在意識」とは、本文で「DNAに刻まれているようなもの」と書かれているように、強く意識されるわけではないものの、日本人には日本文化の中で暮らすうちに空気を読む生き方を求める気持ちがある。「本能的に」身につけているということを指しています。また、「警鐘を鳴らす」とは、空気を読まず自由に行動することについて、本当にそんなことをしているのか、というブレーキがかかることを指しています。以上の内容をふまえてまとめましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問九

B1 関係づけ

ぬけている文をもとの場所にもどす問題です。ヒントはぬけている文自体にあります。指示語や接続語、キーワードに注目しながら、どのような内容が書かれた部分とぬけている

文がつながるかを検討しましょう。また、必ず実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。「厄介」とはどのような意味でそういえるのか、四か所をていねいに確認しながら検討しましょう。「ウ」の直前に書かれているように「自粛警察」が正当化されてしまうのは、日本人が「正しい」側にいたがる「気質」を持っているからです。本来正しいはずの「気質」が面倒な状況を生んでいることを「厄介」と表現しています。

問十

B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分をもとに作られた選択肢かを考え、実際に本文にもどって照らし合わせ、正誤を判断しましょう。ア「自然に区別できるようになる」、イ「ほぼ差のない数の死者」、エ「日本でも多様性を認める必要性が高まってきている」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は「1」と「ア」の間に書かれている内容と合っています。

3

A1 知識

①⑤のものを数える時に使われる言葉（助数詞）を答える問題です。名詞自体に関係のある言葉が助数詞になることも多いので、実際にそのものを使う状況を想定して考えてみましょう。

4

A1 知識

空らんをうめて四字熟語を完成させる問題です。三字熟語、四字熟語は音だけで覚えてしまいがちですが、それぞれの漢

字の持つ意味と四字熟語全体の意味がどう重なっているのかも考えて覚えるようにしましょう。